

新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード議事概要

開催日時：令和2年2月10日（月）17時00分～19時00分

場所：共用第7会議室

出席者：脇田座長、鈴木構成員、川名構成員、尾身構成員、岡部構成員、吉田構成員、中山構成員、舘田構成員

事務局：浅沼生活衛生・食品安全審議官、江浪がん・疾病対策課長ほか

（冒頭、加藤厚生労働大臣よりあいさつ。その後、加藤厚生労働大臣は退席）

（事務局から資料の説明）

- PCR検査のキャパシティが問題になってくる。やはりPCRのキャパシティをとにかく上げるのだというようなことが前提になる。
- 今、これだけの緊急事態のときですからクオリティーコントロールをしっかりした上で、アカデミアのラボをもっと活用することがあっても良い。
- 我々の疫学センターから3名スタッフを派遣していきまして、厚生労働省の方々と一緒に情報を集約している。
- 一般的には、無症状の人はウイルスの排せつが少ないということであっても、ほかの人に感染させるのが少ないとは言い切れない気がするが、どうでしょうか。
- 現時点の解析では、無症状でもウイルス量がそれなりに多い人は見ついている。ただ、必ずしも入院して本当に管理をすることが必要なのかということは考え方によるだろう。
- 早期にはやはり感染の疑いのある無症状も含めてなるべく入院してもらう。感染の拡大期になったら、もうこれは基本的には自宅でやっていく。国は、強制力はないのだけれども、これは国民のため、社会のためをお願いすることぐらいできないはずはないので、私はむしろやるべきだと思う。
- そのときに考慮しなくてはいけないバックグラウンドとしては、やはり致死率の高さとか、そういう症状も勘案していかなければいけない。

- この感染症がどういう経過を取るかということはまだ分からないことがたくさんある。チャーター便で無症候の方が見つかって、そういう方が入院をして経過を見るということは非常に今後の知見に重要なことになる。
- 同一空間に同じ人がいると、二次感染、三次感染と広がっていく可能性がある。その母数が3,000人と多いので、むしろ分散化を図らないと感染拡大が防げなくなってしまうのではないかと懸念している。少なくとも基礎疾患を有して重症化リスクの高い方からは先に外に出していく必要がある。
- 症状がない人からリリースしていくという、それにつなげていきたいのですが、すけれども、脇田先生が、無症状でウイルスを持っている人もウイルス量は変わらないとお話があった。
- 厚生労働省はこういう段取りで行きますというのをいろいろな場面、場面で分かりやすくアナウンスしておく、社会的なショックが少ないのではないかと。
- だんだん国内対策を重視していきますという、今の道筋をやはり示してほしい。
- オペレーションは検討していただきつつ、リスクの高い方に関しては下船を優先させるということを考えるべき。

以上。

* これらの意見が各構成員から出されたが、アドバイザリーボードとしての統一的な見解を示したものではない。